

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870500406
法人名	社会福祉法人すいよう会
事業所名	グループホーム陽だまり
所在地	新居浜市郷3-16-40
自己評価作成日	平成22年6月20日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年7月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者の生活の質を高める。 自らの人間性を高める。 専門性を高める。この三点を行うに為に私達が日々努力しています。、一日の水分量(1000cc以上)を摂取すること。水分を摂取するにはどうすれば良いか工夫すること。オムツから紙パンツへ、紙パンツから布パンツになるようアセスメントを行っていくこと。職員は良い本を読むこと。介護技術を理論的に説明が出来るようになること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

職員は、ミーティングの中で、利用者個々の「快い事、得意な事」「不快な事」「困っている事」等を話し合い、共有されている。「きてつか一祭」で、地域の方が農作物を販売する様子を見たことがきっかけで、利用者のお一人が職員と一緒にすやトマトの苗を植え、水やり等お世話を始められた方もある。今年度より、法人の車を借りられるようになり、希望者みんなで出かけることができるようになった。お弁当を持って、季節のお花を見に行かれたり、最近では市外の紫陽花を見にドライブをされた。日常的には、職員と事業所周辺を散歩されたり、スーパーへ食材の買い物に出かけておられる。車酔いをされる方や外出を好まない方については、テラスに出たり、散歩等で外気に触れることができるよう支援されている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 陽だまり

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

平田 淳子

評価完了日

平成22年6月20日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所全体の理念「利用者とともにそして地域のパートナーとして」とホームでの理念「私達はゆったり笑顔でご本人に寄り添います」がある。その理念を共有する為に、事業所が行っている研修会（人材育成）がある。また、ホームの理念は、スタッフの心の指針として誰もが見えやすい所に掲げ、スタッフは理念を理解し、ご利用者との信頼関係作りにつながっている。 (外部評価) 法人と事業所の理念をもとに、毎年目標を立て、理念の実践に努力されている。今年度は「地域と家族の力を生かしたホーム作り」等、7つの項目を目標に挙げておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 今年度の4月には地域との交流として、「第1回きつかり祭」が行われた。その後も南三角地を利用して自然な形で地域との交流を行いたいと考えている。事業所で行われている盆踊り、手作りリフォームファッションショー、地域の方が出展されている鑑賞喫茶のお出かけ、日常的に行っているゴミ捨て、買い物などで交流が行われている。また自治会に加入している。 (外部評価) 事業所の畑が「地域のコミュニティの場」になることを目指しておられ、その第一歩として、4月には、地域のボランティアグループの方々とともに「きつかり祭」が開催された。事業所と法人の職員が協力して、バザー等をされた。イベントには、多くの地域の方が訪れ、ホームの見学もされた。毎年5月には、地域の鮮魚店のご好意で事業所に鯖を持って来てくださり「鯖会」が行われている。鯖をその場でお刺身等、調理して利用者やご家族に振舞い楽しませてくださっている。畑で採れた野菜を持って来てくださるご近所の方もおられる。又、近くにある法人託児所と合同で行事を行うこともあり、7月は、子ども達と一緒にそうめん流しを楽しまれた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議では認知症の勉強会を行い、地域の人々への理解を深めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 前年度と比べると、スタッフが作成したDVDを流すことによって、ホームでのありのままの生活を具体的に理解して頂けているように思う。また、開催日時を再度メンバーで話し合った結果、土曜日の夜が集まりやすいという意見が多数あり、従来通り行われている。前年度と比べると、事業所側が積極的に問題提起することによって、メンバーから率直な意見を出して頂けるように感じられるようになった。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議には、多くのご家族に参加していただいている。利用者の日頃の暮らしぶりを知っていただくために、現在、DVDを作成し、見ていただく等工夫されている。会議で、認知症についての勉強会を行うこともあり、認知症の理解を深めていただけるような会議内容等も工夫されている。</p>	<p>事業所では、派出所の警察の方や民生委員の方等、地域のいろいろな立場の方にも会議に参加していただきたいと考えておられる。今後、多くの方に事業所のことや認知症のことについて知っていただき、ご意見をうかがいながら、さらにネットワークを拡げたり、事業所のケアサービスの質の向上につなげていきたいと考えておられた。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 保険者として運営推進会議に出席して頂き、中立的な立場として意見を頂いている。これからも会議を通して、事業所から積極的に事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えながら、改善していけるよう、協力関係を密にしていきたいと考える。</p> <p>(外部評価) 6月の運営推進会議では、事業所から利用料の変更等についてお知らせした際、市の担当者が、ご家族の立場に立った意見を出してくださったり、事業所からの説明に補足していただいたり、事業所とご家族とのパイプ役となってくださった。</p>	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) スタッフは拘束しないケアに努めている。スタッフ同士共通意識を持ち、見守り支援を行っている。ご本人の安全、生活の質を守る為に行われていたベッド柵の拘束は、低床ベッドに替え、ご家族の理解を頂き、解消されたケースがある。</p> <p>(外部評価) 玄関の扉が開くと、チャイムが鳴るようにされている。調査訪問時、庭の散歩等、玄関を出入りしている利用者の様子がうかがえた。</p>	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 人材育成や管理職研修などで学ぶ機会がある。職員同士でストレスがたまらないよう、また職員一人では抱え込まないよう、職員同士で心配りをしている。「ありがとう」の感謝言葉の溢れるホーム作りに努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度については事業所内での研修できる機会がある。が、我がホームは本人の希望やホームの看取り指針に合えば、看取りケアまで考えているので、何かと難しい点が出てくるのではないかと思う。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 運営推進会議において契約の改定については、話し合いが行われた。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関にはご意見箱を設けている。苦情解決窓口があり、改善に努めている。また、運営推進会議にはご家族が意見、要望を表せる機会がある。 (外部評価) ご家族には、毎月、行事予定や介護計画の実施状況、利用者の日頃の暮らしぶり等をお便りにして知らせておられる。4月の運営推進会議で「消防署の点検があった」ことを報告された際には、ご家族から「問題点がなかったか」等の質問があり、事業所は今年度のスプリンクラーの設置予定等について説明された。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	(自己評価)	
			<p>代表者や管理者との面談や陽だまり会においても職員の意見や提案の場となっている。スタッフの現場の声が生かされている。また、改善提案書を随時提出出来るようになっている。職員の中には、他部署への実習に行き、「オムツから紙パンツに、紙パンツから布パンツに」ご本人に無理なく変更出来たらという提案があり、実践しつつある。</p>	
			(外部評価)	
			<p>管理者は、職員からケア等の意見や気付き、提案を聞き取り「まず、やってみる」ことにされており、職員と話し合いながら取り組みをすすめておられる。</p>	
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	(自己評価)	
			<p>職員のマイプランがあり、目標をもって取り組めるようになっている。それをすることにより、代表者は職員らの個々の努力や実績を把握出来ている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	
13		<p>職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	(自己評価)	
			<p>法人内では、人材育成、介護技術研修、感染症食中毒予防委員会、事故防止委員会、安全環境衛生委員会、認知症ケア勉強会、管理職研修会などがある。法人外では、愛媛県GH連絡協議会、愛媛県社会福祉協議会、介護支援専門員連絡協議会などの研修や勉強会が行われ、働きながらトレーニングしている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>愛媛県GH連絡協議会主催の研修、介護支援専門員連絡協議会の交流などを通してネットワークづくりや勉強会を行い、サービスの質向上に努めている。</p>	
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	(自己評価)	
			<p>愛媛県GH連絡協議会主催の研修、介護支援専門員連絡協議会の交流などを通してネットワークづくりや勉強会を行い、サービスの質向上に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>愛媛県GH連絡協議会主催の研修、介護支援専門員連絡協議会の交流などを通してネットワークづくりや勉強会を行い、サービスの質向上に努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	
			<p>ご本人の快い生活を送って頂く為に、本人との信頼関係を築く為に、コミュニケーションを大切にしている。スタッフは共通意識を持って、理念である「寄り添いケア」を大切にしている。本人との信頼関係が出来るまで、難しいことが多々あるが、安心を確保する為に関係づくりに努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>ご本人の快い生活を送って頂く為に、本人との信頼関係を築く為に、コミュニケーションを大切にしている。スタッフは共通意識を持って、理念である「寄り添いケア」を大切にしている。本人との信頼関係が出来るまで、難しいことが多々あるが、安心を確保する為に関係づくりに努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 平成22年3月にサービス開始されたご利用者がおられる。ご家族の困っていること不安なこと、要望などに耳を傾け関係づくりに努めた。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) その方をよく知るために、関わりのあったディサービス、担当ケアマネさんにもご協力頂き、関係づくりに努めた。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ご利用者一人ひとりの個性や出来ることを知ることによって、スタッフは教えて頂いたり、助け合ったりしている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 「介護はプロに、愛情はご家族に」と言われているが、運営推進会議やケアプランの説明時にはご家族に話し、家族から理解を貰っている。また、来訪された時には、どの様に過ごされているのかをお伝えし、家族との絆が途切れないように情報を共有している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 故郷訪問、地域の行事参加、月1回のオカリナ演奏に来て下さる先生を利用者は楽しみにし、先生が帰られる時には、荷物も車まで共に運んだり、一緒に散歩をしたりと楽しまれている。また、利用者の友人の訪問は入居来行われていて、共に昼食を一緒にされ、ゆっくり過ごせるよう気配りを行っている。また、陽だまりの近所の方は、最近入居された方のお友達だと分かり、よく来訪して下さる。 (外部評価) 利用者は、地元から入居されている方が多く、散歩時に顔見知りの方が声をかけてくださったり、利用者の同級生が野菜をおすそ分けしてくださったり、友人がおかずを作って持って来てくださることもある。ご自分のアドレス帳を見ながら、ご家族や知人に電話をかける方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の暮らしの中で、利用者同士の助け合い、支えあいが行われている。具体的には、車椅子の方へのさりげない生活援助があったり、気の合う同士の散歩や食事、部屋への訪問などが行われている。また、利用者同士のトラブルのないようにスタッフは前々察知して対処にあたっている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療治療を希望された家族には、ご家族の相談や支援に努めた。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 月1回のミーティングにおいて、利用者一人ひとりのカンファレンスが行われている。その方の「快」「不快」などを皆で話し合い、スタッフの利用者に対する意識が共有化されている。日々のケア記録の中に、本人の言葉や行動などを詳細に記録し、スタッフ間で共有している。 (外部評価) 職員は、ミーティングの中で、利用者個々の「快い事、得意な事」「不快な事」「困っている事」等を話し合い、共有されている。「きてつか一祭」で、地域の方が農作物を販売する様子を見たことがきっかけで、利用者のお一人が職員と一緒にナスやトマトの苗を植え、水やり等お世話を始められた方もある。	管理者は「利用者のこれまでの暮らしや日々の中から知り得た情報を誰が見てもわかるように、アセスメント表を充実させていきたい」と考えておられる。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族（子供、兄弟姉妹）から情報収集を行ったり、普段の何げない会話の中から把握するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) スタッフ皆で、本人の一日の生活を通して、出来ること、わかる力を暮らしの中で把握しようと努力している。心身状態は、その日、その時々で違うので、その都度様子観察を行い、現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人の「快い生活とは」を常に追及しながら、職員は介護計画を立てている。日常の何げない会話からニーズを引き出し、介護計画に反映させている。問題がある場合はミーティングで話し合い、必要に応じプランを変更している。家族には介護計画の実施状況及び評価をお知らせし、ご意見やアイデアを頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、基本的に3ヶ月に1回見直しをされている。計画は、利用者個々の担当職員が作成し、月1回、ご家族にも実施状況を送付し、職員もモニタリングをされている。職員は、法人の研修の中で介護計画作成についても勉強をされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別日誌や健康チェック表において、情報を共有している。また、個別日誌ではケアプランを生かし、具体的な関わりや職員の気付きなどを記録している。月1回のモニタリングに反映されている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者のニーズに対して、柔軟で臨機応変な支援をしている。具体的には、自室での食事、ドライブ、散歩、買い物、お昼寝などその時その時の心身の状況を考えながらニーズに答えている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>現状は、オカリナ演奏や陶芸教室の参加、盆踊りの地域行事への参加など。今以上に地域資源と協働していきたいと考えている。「きてつか一祭」のイベントにおいて、利用者の力を再確認出来た。まずは南三角地を拠点として地域との協働を働きかけたいと思っている</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 現状は家族との同意のもと、かかりつけ医を基本と している。本人や家族の希望により、必要に応じて、他 の認知症の専門医や必要な診療科への受診も行ってい る。受診の際には、スタッフは送迎だけでなく、必要 時には、医師に日常の様子を伝え、連携を図ってい る。	
			(外部評価) かかりつけ医への受診は、基本的に、ご家族に付き 添っていただいている。事業所で受診時の送迎をされ たり、時には、ご本人とご家族を病院へ送迎されるこ ともある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 普段の健康管理や観察の視点など、日ごろから介護職 員と看護職員の関係を密にし、情報連携を行ってい る。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入退院する際には医療機関との相互に本人の情報提供 を行っている。長期入院になる場合は、病院に出向 き、本人の状態を把握し、病院関係者との関係づくり を行っている。また、家族との連絡を積極的に行い、 情報交換や相談に努めている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 事業所の看取りケアの指針に基づき、利用者や家族に 説明しているが、早い段階からの本人家族の希望は聞 き取り出来ていないのが現状である。今後は、事業所 で出来ることを十分に説明し、本人や家族の方針を共 有していきたいと考える。	
			(外部評価) 事業所では、利用者の身体機能の低下等、状態の変化 時には「看取りに関する指針」に基づいて、事業所で できる支援等をご家族に説明されており、今後のこと についてのご希望をうかがっておられる。 利用者が重度化した場合や終末期のあり方について、 早い段階からご本人やご家族の希望をうかがいなが ら方針を共有していかれてほしい。又、ご家族やご本人 の希望等も踏まえて支援できるよう、医療機関との協 力体制の充実を図ったり、ご家族の心配ごと等も聞き 取って話し合われてみてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 利用者の急変時や事故発生時の緊急連絡マニュアルがある。特に夜間対応では、単独判断しないように教育している。事業所での事故防止委員会に参加し、勉強会が行われ、スタッフにも伝えている。スタッフは応急手当の教本あり、看護師からの勉強会が行われ、技術習得を行っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に、年2回の避難訓練の実施、年1回の消防署への通報訓練の実施を行っている。地域の協力体制、事業所の応援体制が出来ている。また、地域の方に自動通報装置の登録メンバーになって貰っている。災害の発生時に備えては、事業所では水や食料、オムツなどの準備をしている。スプリンクラー、自動火災報知装置設置の予定である。	
			(外部評価) いざという時は、法人内の職員が協力し合うようになっている。避難訓練では、法人内の職員も参加して、マニュアルに沿って訓練を実施された。事業所は、水害の危険性もあり、土嚢を準備しておられる。	自動通報装置に登録している人や地域で協力していただける人達も、ともに避難訓練に参加していただいてはどうだろうか。又、水害の危険性もありうることから、水害時の地域との協力し合えるような体制作り等も、すすめていかれてはどうだろうか。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ミーティングや勉強会などで話し合ったり学んだりしている。一人ひとりの人格を尊重するためには、本人をよく理解することが大切だとスタッフは知っている。新人教育されたスタッフの言葉かけから、長年勤めている職員は慣れ合いの中での言葉かけの見直しをしている。また、居室内での排泄介助では、ドアを閉める、タオルをかけるなどの支援を行っている。	
			(外部評価) 職員は、食事のお膳を利用者に手渡される時「大丈夫ですか」と気遣い、利用者がしっかりとお膳を持ったことを確認して「手を離しますよ」と声をかけておられた。職員は「利用者の気持ちを大切に、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけから信頼関係を築いていきたい」と話しておられた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思表示出来にくい利用者に対して、本人の気持ちを表情や全身での反応を注意深く観察を行っている。普段と違う表情やしぐさでキャッチし、寄り添いケアをし、その時その時の本人の思いや希望の対応を心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その方の本来のペースや望んでいるペースに合わせた暮らしが出来よう支援している。一日の過ごし方を柔軟に変えている。本人の言葉や表情を大切にすることを優先している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みや意向で、季節感のない洋服になったり、何重にも重ね着したり、昼夜逆転の服を着たりしている。タイミングを見計らって、プライドを傷つけないようにさりげなく声掛けを行っている。また、利用者の中には化粧品に興味がある方がおられ、そのことが出来るよう声掛けを行っている。理美容では本人の希望を把握し、伝えている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者との食事作りや利用者との食事は家庭的な雰囲気では利用者との楽しみの一つだと職員は知っている。また、利用者にとって、台所仕事は力の発揮出来る場所となっている。スタッフは利用者の出来ること出来ないことを把握し、プライドを傷つけないよう支援している。利用者の中には他の利用者に気兼ねして食堂での食事が出来ない方が居られる。その方には個別対応をしている。	
			(外部評価) ご自分のお膳を運んだり、下膳して、洗い物をされている利用者が見られた。車椅子を利用されている方には、えびの皮むきや野菜の下ごしらえ等「座ってできること」をしていただいている。調査訪問時、エプロンと三角巾を着け職員と食事の支度をされている利用者の様子がうかがえた。朝はバナナ、昼と夜は季節の果物をデザートに付けておられる。又、一人で食事をすることを好まれる方は、ご自分が食事を居室に運んで食事をされるようである。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養面では栄養士が献立を立てている。水分量については一日1000cc以上摂取出来るよう支援している。事業所全体が知識や意識を持って取り組んでいる。また、スタッフは本人の食べ物や飲み物の好みを知っている。食べず嫌いだった食品でも食べられるようになった方がおられる。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のケアを行っている。ご自分で入れ歯の管理が出来ない方には、管理をしている。また、利用者によっては、声掛けだけで終わっている方がおられるが、その方には食後のお茶をお勧めしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 時系列のチェック表でパターンを把握している。食前食後は排泄支援を行っている。また利用者の動く様子で先取りケアに努めている。利用者の身体機能低下の方も、昼間は紙オムツから紙パンツに変更している。スタッフは最期の最期までトイレでの排泄支援をと思っている。また、紙パンツから布パンツに変更になるよう自立にむけた支援の努力をしていきたいと考えている。 (外部評価) 紙オムツから紙パンツ、紙パンツから布パンツへと、利用者個々に段階をおって支援されている。居室と居室の間に、アコーディオンカーテンで仕切られたトイレが設置されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表での便の確認を行っている。繊維質の多い食材や一日1000cc以上の水分量摂取を心がけている。また、運動出来るように本人の好みのゲームを行って活動への支援をしている。自然排便を促す工夫を行っている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に合わせて入浴支援を行っている。例えば、毎日入浴したい方には毎日入浴を、入浴を拒否される方には、スタッフで工夫し、なるべく入って頂けるよう工夫している。時間帯は午後から夕食前の時間になっている。 (外部評価) 入浴を好まない方には、声のかけ方を工夫したり、少し汗をかいた時にお誘いする等して、3日に1回程度は入浴していただけるように支援されている。体調が悪く入浴できない時等は、体を拭く等、清潔が保てるように支援されている。入浴後、好みの化粧水で肌を手入れされている方もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人生活習慣を大切にしている。一人ひとりの睡眠パターンが違うので、それを大切にしている。眠れない時には寄り添いケアを行っている。夜間の睡眠状態や体調面を考慮し、休息を促す場合もある。また、室温湿度の調節、掛け物の調節、ベッドの高さの調節なども心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬する薬の目的や副作用、用法や用量について理解するために、看護師により教えて頂いている。本人の状態の経過や変化など看護師との連携は出来ていて、その都度指示がある。また誤薬がないように一人ひとり確実に手渡し、飲用の確認を行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の役割や楽しみごとの支援の必要性をスタッフは知っている。スタッフは支援に努めている。例えば、生活歴を生かした役割では、台所仕事、ゴミ捨て、花や野菜作り、散水、草取り、神棚のお供え等々。楽しみでは、お買い物、季節ごとのお花見、お手玉、キーボード弾き、折鶴、歌等々	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に外出できるよう個別ケアの工夫に取り組んでいる。普段行けないような場所でも、本人が希望される場合には家族との連携が出来、協力して頂けるケースもある。その日の希望にそって出掛けられるよう支援して行けるように努めている。	
			(外部評価) 今年度より、法人の車を借りられるようになり、希望者みんなで出かけることができるようになった。お弁当を持って、季節のお花を見に行かれたり、最近市外の紫陽花を見にドライブをされた。日常的には、職員と事業所周辺を散歩されたり、スーパーへ食材の買い物に出かけておられる。車酔いをされる方や外出を好まない方については、テラスに出たり、散歩等で外気に触れることができるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者の中には預かり金として事業所が預かっている場合がある。その場合は用途に関する相談や金額の報告、出納帳の報告が行われている。しかし、本人の力量に応じて、多少のお金を所持し、受診時や買い物時には自由にお支払い出来るケースがある。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の力量に応じて、電話を掛けたい時には、スタッフに申し入れを行っている。希望通りにしている。利用者から手紙の希望はない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>玄関の長椅子がゆったり過ごせる空間となっている。また、南三角地では季節の花や野菜があり季節感が味わって頂ける。そして、地域の方と一緒にくつろげる空間が出来上がっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間の窓からは、田んぼや畑を眺めることができ、利用者は農作業の様子や、野菜、稲の成長等から四季を感じることができる。居間の壁には神棚が設けられており、毎日利用者と職員と一緒に手を合わせ般若心経を唱えておられる。調査訪問時、居間の一角にある畳スペースでは、利用者の方が正座でひざに猫を抱いて、なでておられる様子がうかがえた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>気の合った利用者同士、気軽に出来る空間があちこちにある。また、人との関わりを嫌う利用者には一人になれるように自室や別の部屋の利用が出来るようになっている。また、日当たりの良いアンマ機を好まれている利用者も居る。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者や家族の持ってこられた物を使用している。出窓や棚には花や家族写真、本人の好きな縫いぐるみなどが置いてある。壁には孫の絵や孫の名前などを貼っている。本人の気に入っている枕やクッションがあり、居心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の床は、基本的にフローリングであるが、利用者のご希望や状態に応じて畳にされているお部屋もある。ご家族からの母の日のプレゼントを大切に飾られている方や、庭で摘んだ花を花器に生けられている方がおられた。調査訪問時、ラジオでお好きな歌を聴いておられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>自室やトイレ、風呂などの場所が分かるように明記して知らせている。これによって、不安や混乱、失敗を招くことが少なくなった。</p>	